

令和8年度第4回北広島町まちづくり総合委員会 議事録(要旨)

日時：令和8年9月17日(木) 9:30～

場所：北広島町役場本庁 2階 会議室

1. 開会

2. 開会あいさつ

町長

これまでの度重なる審議にご協力いただきありがとうございます。本日はこれまで重ねた議論を元に素案について審議いただく。策定も大詰めを迎え、ご意見を頂戴し、未来を見据えたよりよいものになればと思う。よろしくお願いします。

3. 委員紹介

欠席：奥田委員、長本委員、上原委員、池田沙織委員、畑中委員、川本委員

4. 議事

第3次北広島町長期総合計画の策定について

委員

提出した資料について、前回会議後につくったもので参考にしてもらえたらと提出した。この資料と今回出来上がった資料に違いがあっても良いと思うし、内容も近いと認識している。

重点方針は8個あって、未来へ伸びる6本の柱というと数字がいろいろでくるので迷う。情報発信DXネットワーク強化は重点というよりもそれを補うための手段であると認識している。重点方針というなら8個も多いのではないかな。3つ4つくらいにしてしまって、その手段として情報発信ネットワークDX、土台として必要な安心安全など。循環になっているものと柱になっているものの違いでは、人を育てながら価値を生み出して、それが良い循環になれば良いと考えた。意見として分かれて良いと思うので、みなさんの意見を聞きながら決めていきたい。

委員

重点方針が8つあるとして、将来像の絵の中に1ひとづくり、など書いてあれば見えやすい。順番で出てくるのであればDXとネットワークは順番が逆であろう。また、重点方針の中にある文言は将来像から来ている対応しているべきだと思う。その後の施策分野も重点方針で使っている文章を使うようにすべきで、そうすると流れが分かりやすくなる。暮らしといのち、いのちと暮らしなど逆になっているところも気になる。細部をみていくと読む際にしっくりくるのではないかな。

さらに、ツール・手段となるものの位置付けがわかるようになっていけばしっくりくる。そこは工夫いただきたい。重点方針の中に出てくる文字も将来像に使われている表現でお願いしたい。施策分野の中も同様に考えてほしい。

委員

委員に同感で目的と手段は分けないといけない。施策分野、基本施策になるとつながりがわからなくなる。重点方針と最後までリンクしてくることが重要だと思う。

将来像について、町の将来像というより総合計画の持つ意味、今後どう展開していくのかの理念と思っていた。内容も〇〇します。という形になっており、理念とし、これを展開していくことでどんなまちになっているのか。価値が力になっている町にすることだと思う。そのための説明文ではないか。もう一度整理をしないと、次の重点方針と施策分野につながっていないのではないかな。

委員

第1編でこういった状況で課題があるのか、第2編で10年後にどんなまちを目指すのかの部分。第3編で具体的に何をやるのかの細かい部分だと思う。第2編の基本構造の一番上のめざすまちの将来像がやっと決まったところから、降りてくるのだと思っていたが、今回出てきた量が多すぎる。第2編をもう少し深掘りしていかないと下に降りていかない。このまちの価値はなんなのかを深掘りしていき、みんなで共通認識していく必要がある。

「自然」「水」「森」「農」「食」「歴史」「文化」「産業」「教育」「人のつながり」など様々な価値を残すだけではなく、この先10年で未来の力に変えていく思いが全部詰まっているんだと思う。その中でも10年後に残っていて欲しい機能で考えると、「生活できる」「育てられる」「挑戦できる」「稼げる」「つながれる」の5つくらいに整理できる。交通、医療、福祉、防災だったら「生活できる」に入り、子育て、教育は「育てられる」に入る。起業や若者の活動は「挑戦できる」に入る。といったようにカテゴリに分けられると思っている。自然や文化はどこに入ることもなく、北広島町の中の価値そのものになってくるので、土台的な考えとなる。

北広島町の価値そのものは、DX、情報発信、施設、イベント、補助金、組織は目的ではなく手段となる。それを使いながらどのようにしていくかの考えが必要。

縮充という新しい言葉が使われているが、何を守って、何を廃止していくのか、どう縮充するのか、そこまで考えていかないといけないと思っている。

絶対に守るべきものを決めていくことが、この町の価値を未来の力にということになる。今後10年こんなまちにしていくという思いが住民にも伝わって、それをするための行動が見えてくるのではないかな。

委員

情報量が多くて、読み切れていないところがある。皆さんの意見や資料を作成した経緯なども聞きたい。

委員

将来像の下の記事が指針、理念を表していることで良いのではないかな。「この町の価値を、未来の力に」と具体的なことを表現しているわけではなく、この理念に沿った行動をして、10年後にこの町の価値が力になっているような未来を実現しようといったイメージ。

守るべきものはなんだ、どう残していくのかということが、ひとづくり、しごとづくり、定住・交流のなかにそれぞれ入っていく。という関係にあるんだと思っている。

読む人がそう読めるようにあるべきだというご指摘は確かにそのとおりだとは思いますが、特段の漏れがあるとは思ってはいない。

事務局

重点方針のイメージについては、6本の柱はあるが、同じ重さではないと思っている。また検討させていただきたい。

文章量が多かったのはスケジュールの関係で先のことを考えて出させていただいた資料ではある。12月には締めないといけな。委員の話もそうだと思うが、この計画の中でどこまで具体性を持たせるのか、事務局側の思惑と委員の皆さんと乖離があるように思う。元々総合計画はそこまで具体性を持たせるものではなく、町がやっていくことの根幹の部分となる。具体性を持たせる個別計画が別にある。基本的になにを目指すのかのところだけ具体的に、より細かいことは個別計画に任せるなどやり方の正解がなく、整理がつかない。

ここまでの議論を受けて、ベストの形で出させてはいただいている。その中でご意見をいただいてさらに修正・調整はしていきたい。

委員

この長期総合計画は10年後どうありたいのかの理念、指針を定めておいて、いろいろな計画や計画に沿ったものとして、一番の拠り所になるようなものだと思っている。今の時点でかっちりしたものが書いてあるものではない。その上で、さらに変えるべきなのかどうか意見をいただければと思う。

委員

6つある柱は4つくらいに縮小できるのではないか。DXや情報発信など似ているのではないか。

委員

将来像というものにたいして、将来はこうなっているという絵になっていない。「将来像」という字がなくてもよいのではないかとも思う。

スケジュール的に厳しいのであれば委員のいうように、言葉がつながるように納めてもよいのではないかと感じる。

委員

重点方針にイラストが入ったことは飲み込みやすくなっているが、「この町の価値を、未来の力に」の実現に向けて歩を進めるためには住民が理解する必要がある、そのためにはもう少し整理しないといけない。

表現の問題かと思うが、同じような文字が続いていて、くどい。読んでいて疲れそうである。同じ言葉が何度も出てくる必要はないのかと思う。

事務局

重点方針と将来像を1P内に収めてしまって、将来像が2度出てきていることも分かりにくくしてしまっているかもしれない。

委員

重点方針なので、これに力を入れていくというものが8つあるのは多いように感じる。ここに力を入れるべきものはもう少しまとめたほうが良い。手段と目的が一緒になっているように思う。

イラストがはいってイメージしやすくなっているので、こことリンクするようにしてほしい。

将来像で1P分記載してある言葉をどう受け止めたらよいのか自分の中でもまだよくわかっていない。

委員

一般的に重点方針と書いてあったら、1行程度でそのために何をするのかがいくつかあることになる。何をしますというのが重点方針に位置付けられたくさん出てくるので、レベルが違うという意見かと思う。文字のイメージと実際の内容のギャップの問題かと思う。行政には分野がたくさんあるので、こういった表現になるのだと思うが、一般の方がどう感じるかは別のことではないか。

委員

ファンづくりと交流など表現が異なっているところは合わせるべき。

重点方針のイラストでこのまちの価値とは何なのかをはっきりするべきだと思う。その上で価値を未来にどうしていくのか。その上で未来に伸びていくイメージがある。

このまちの価値とはなんなのか、何を残していきたいのか、この一言ではわからない。

委員

見せ方についてはみなさんと同意見。

町内で会社をやっている視点からいうと、企業は人不足なのに人がこない。ポジションはあっても人が決まらない。県外から来てもらっても良い。北広島町にこういう仕事があって、こういうポジションがあってということが伝わっていない。

町内にどんな企業があって、どんな仕事があって、どんな強みがあるのか分かりやすく PR できると働きたい人が県外から定住してくれる可能性があるのではないかな。

町の雇用のページがわかりづらくて探せない。どの案件をみても文字しかないので、見た瞬間に仕事がないと思ってしまう。求人のやり方を工夫してもらってアピールしてほしい。

うまくいった例では東京から来てくれた人などにヒアリングしてなぜ北広島町にきてくれたのかをもっと PR できたらよい。

委員

これまでの長期総合計画は「町役場がどうします」という計画だったのではないかなと思う。

町民がどうするのか、町民がお客さんであるのは良くないと伝えてきた。雇用のホームページなども個人・法人関わらずみんなでこうしていきましょう。と働きかけるようになってほしいと思う。そのためには住民が読んで動けるものであるべきだと思う。

委員

元々あげている将来像を実現するための重点方針と考えるのであれば、それに関連した重点方針であるべきで、情報発信やDXは将来像には書かれていないものになる。こういうまちを目指していくという宣言が最初にある中で、それに取り組んでいくというのであれば、ひとづくりやしごとづくりや定住人口などを特にやっていく。そのために情報発信やDXも大事であるという見せ方にすれば町が目指す姿のためにこういうことを特に取り組んでいきます。というのがわかりやすい。パッとみて多いなとは思いますが、それぞれの視点で大事なことなんだと思う。6本の柱じゃなくて、人づくり、定住などを支えるための情報発信などにできるのではないかな。

委員

表記をどうするのか。構造としても正しく、見る側からしても分かるように作れたらよいと思う。

委員

将来像がどうしてこうなったのかを考えていたが、これまでと同じではない、覚悟を決めてやっていくべきこととして、この文章になったかと思う。住民が読めるようにということもある。委員が言われたような絶対に手放さないということを明文化したり、見える化したりということが大事だと思う。縮充のところが気になる。新しい言葉で誤解を生みやすいという懸念もある。特に「縮める」というところでは、対話をしながらすすめる必要があるのではないかと思うので、「共創」とセットで誰がどのように縮充していくのかということを表示してほしい。

委員

住民として、みなさんに読んでいただくためには文字が多いと思う。読みやすくするためにみなさんの意見があったかと思う。シンプルで誰もが読めるものを作っていただきたい。

委員

その点では、これは本文なので、漏れ抜けがないもの。これをさらに薄く読みやすくしたパンフレットのようなものは配られると思われる。情報量としては薄くなるので具体的にどうかというときはこの本文が出てきて読みやすくなる。そういったバランスも含めて考えていただきたい。

事務局

今回は本文であり、概要版の方では重点方針やイメージのわかりやすいものを作らせていただきたい。

委員

将来像は下の8つが将来像のように考えてしまう。循環型のまちづくりは委員の提案したイメージに近い。6本の支えとなっており、将来像ではない。もっとしぼって目的がここであるというものが見えていて欲しいと思う。

事務局

ご意見踏まえて手を加えていきたい。将来像については、そこに行くまでの序論のアンケートなどで課題の抽出はしてあるものの、価値・良い所の整理が十分ではないかもしれない。導入として、町の良い所

を整理した上で2編に入っていればわかりやすいのではないかと感じた。

つくりや表現の仕方はわかりやすくしていければと思う。

委員

確かに、第1編で価値について書いたセクションが必要かもしれない。北広島町の良い所・これを守りたいということも加えていただきたい。

委員

行政側の意見もよくわかる。重点方針や施策は過去のフォーマットを似たものとして踏襲している中で、いちばん頭の部分を変えたが、その下が変わっていない。

人口の規模を追うまちづくりから、この地の価値を磨き上げて、さらに高めるというこの変化は前の10年に比べて人口減少がある中で次に新しいことをしていく覚悟となっている。次は新しくしていこうという思いの部分。地域のよい部分を育てながら挑戦していくという良い文章になったと思う。

ここまで来たら重点方針も数をしばったり、このフォーマットじゃない考え方にしたり。時間が無い中で難しいところもあるが、メインの柱が大きく変わったことに合わせていかないと辻褄が合わなくなるのではないかな。

A Iが導入されて大きく変わってきている。D Xなんて当たり前で、自治体がどこまでこの感覚を入れていくのかで、かなり淘汰されていく世の中になってくると思う。紙でやることも覚悟を持ってなくして変えていかないといけない。10年後広島で一番進んでいる田舎である。くらいの想いを持ってやっていかないと、魅力あるまちとして外から移住したいなんて思われないのではないかな。

先月くらいから移住関係のアンケートをとらせてもらっているが、北広島町の魅力はあるが、北広島町って何かについて思い浮かばない人が60%くらいいた。本当にそれが価値であり、町外の人にも伝えていかないといけない。それをいま曖昧なものを文章や冊子、無いんだったら何か作っていく。町民も知っていないといけない。縮小していくだけになってしまう。

全国でも神楽の団員が一番多いと思う。敷地も広い。水源が2つある。中国地方で、広島県で一番〇〇なタグをつくって、情報発信も含め、デジタルに特化した田舎も含め、町として新しい何か、覚悟を盛り込みたい。パッとみてわかるようにしていきたい。

今までの形があるのもわかるが、重点方針はぎゅっとわかりやすくして、基本D X・デジタルはすべてのベースにあるものとして、新しいことをもっとやってもらった方が良い。

委員

重点方針はせいぜい左から3つくらいに絞って、D X情報発信は当たり前だがこれがないとできない支えるものになってくる。どれに絞るかは検討いただいて良い。

重点方針が8つあるが、3つ程度にして、将来像からみると、ひとづくりは人＝価値で人が価値をつくり、価値が人をつくるという相関関係にあると思うので、これで良い。しごとづくりはおかしい。先ほど

も意見あったが、実は仕事はある。つくる必要はないが、見せないといけない。固い言葉では産業の振興。将来像の中では価値の磨き上げの部分になる。チャレンジの話もある。

なぜ北広島町ファンがまた出てくるのか。ここは交流・定住ではなく、あっさり「つながり」である。地域資源・地域の価値を高める、広げるという意味で、将来像とリンクしていけばこの3つになりそう。

それを将来像からの言葉やイメージをこの3つに入れ込んでいく重点方針で良いのではないか。

せいぜいそこまで、あとの施策分野については細かく説明するのではなく、将来像や重点方針に紐づいて良く分かるような仕組みにしていだきたい。第2編では重点方針そのものへの課題がない。なぜか施策分野になってしまっている。総合計画がもつ方針とすれば、いまの3つであり、これに対して検証していこうと考えればコトは足りるのではないか。

今までにないものをつくろうと決めて進めてきたので、今までのことは水に流してもらって、新しい初めてつくるつमりの総合計画でよいと思う。

第2次の整理は行政の中でされると思うので、それはそれで良い。課題をいろいろ書いてあるが、新しい北広島町をこういうまちにしていこうということは仕切り直しでよいと思う。

委員

行政の計画というだけではなく、町民みんなで取り組んで欲しいという思いがある。そうした時に6つの柱にはちょっと性質の違うものが入っている。

行財政運営は行政しかできないことであり、生活基盤は一部民間・住民がやるものもある。DXの推進は行政だけがやるものではなく、住民も企業もみんながやるものである。情報発信もまさにそうで、みんながやるもの。私個人としてはいろいろという思いがある。

行政計画としてはこうなるのかなという思いもある。でもみんなで新しい10年間行政も住民も取り組むものの意思表示であってほしい。

委員

「この町に暮らす人、働く人、そしてこの町を想う人。この町につながるすべての人が、力を合わせて世界から選ばれ続ける北広島を創り上げていきます。」がすごく良い文章だと思った。

委員

「自然と共に歩み、誰もが安心して生涯を過ごせるゆるぎない土台」というところが表現ただけでうれしく思った。

事務局

本日欠席の委員からの意見として

施策に「てごてご」を充実させるという手段を先に記すのではなく、現在の子どもたちや子育て家庭が、

年齢ごとにどのようなことに困っているのか、どのような支援や環境を求めているのかを、改めて把握する必要があると感じた。

また、学びの提供についても、ふるさと教育がとても良い取組だと思う一方で、学年ごとの学びが点となっており、学年を通じた縦のつながりと地域を超えた交流を組み込むことで、これからの北広島町らしい教育につながるのではないかと。

学校だけではなく、地域の施設や保護者、地域の大人も交流できるようにする。学校教育や地域学習をきっかけに、地域を越えて人と人がつながっていく仕組みを意識的につくることに意味がある。

「北広島町では、子どもたちが町全体を使ってこんな学びをしている」という教育の特徴が外からも見えるようになれば、魅力になると思う。

総合計画が今後 10 年間の方向性を示すものであるならば、現在ある取組を継続するというだけでなく、これから 10 年間で目指す姿まで示してもよいのではないかと。

事務局としては、てごてごが始まって 8 年がたち、状況も変わっている。情報も正しく利用者に届けられていないところもある。

具体的な内容を今回の総合計画にどこまで入れるかということもあるため、事務局で一度預からせていただきたい。

5. その他

次回委員会は 10 月の早い時期で実施したい。

6. 閉会あいさつ

副町長

本日も積極的にご議論いただきありがとうございます。

ある程度形が見えて来たかと思う。スケジュールについてもあるが、よりよいものにしていきたい。

7. 閉会